

学校再開までに

校長 鈴木 祥仁

新型コロナウイルスの感染拡大により、臨時休校を延長、長期にわたりご家庭でご支援いただいていることに深く感謝申し上げます。

今後の感染拡大状況にもありますが、これから段階的に学校を再開していく予定です。再開時期及び方法については、現在検討しています。詳しいことが決まり次第、ご連絡いたします。

休校中の今、大切なのは生活のリズムを乱さずに基本的な生活習慣を確実に身につけることです。「自分で自分をコントロールすること」両親や先生に言われたからではなく、自分で基本的な生活習慣をしっかりと身につけてほしいと思います。朝、誰かに起こされるのではなく、自分で定時に起きて、三度の食事を食べ、夜はお風呂に入って定時に寝ること。早寝早起き、朝ごはん、挨拶、そして家の手伝い。これらのことがしっかりとできないと勉強も伸びません。休校中の今、一番大切なことだと思っています。

そういった基本的な生活習慣を身につけたうえで、休校の期間を利用して、普段できないことをしてほしいと思います。自宅での勉強は、学習課題の他に、自分の興味関心を広げたり、日頃読めなかった本を読

んだり関心のある事柄を深く追求する良い機会です。世界的科学者ニュートンは、学生時代にペストの流行で大学が長期にわたる休校中に、落ちるリンゴを見て万有引力の法則を発見しました。ニュートンはその時の休校を「創造的休暇」と呼んだそうです。

休校が長期化し、学校での勉強・部活動・友達との語らい等、日常の「当たり前」が失われ、生徒の皆さんの中にもつらく悲しい思いをしている人も少なくないと思います。一方、大人の誰も経験したことのない非常事態の中で生活している「時代の証言者」として、休校中、「何を学び、何を考え、どのように生活をしたのか」を受け止め、その経験を再開後の学校生活でも振り返り、個々の経験を友達と共有しながら、集団での学習や学校生活に生かす、「休校を人生の糧にする」という考え方も大切にしていきたいと思います。子ども達の未来のために、保護者の皆様のご理解とご協力をお願いします。

入学式

四月八日（水）新型コロナウイルス感染拡大防止のため、式の規模は縮小されましたが、第65期生九十四名の入学式が挙行されました。澄み渡った青空の下、穏やかな日和の入学式となりました。

名簿で自分の名前を確認し、教室に向かう新入生の姿は初々しく、これから始まる中学校生活への期待を感じさせました。

新入生入場では、緊張しながらも、凛々しく堂々と歩き、校歌斉唱においては、体験入学時と式当日の朝に指導された校歌を皆が歌い、印西中生になった自覚を強く感じさせました。呼名への返事も大きな声でしっかりとした態度で臨み、清々しく感じられました。

生徒会本部役員蜂谷さんの歓迎のことばは、自身の経験を踏まえ、新入生の不安を払拭させ、希望に満ちたものとなるものでした。

新入生代表野原さんの誓いのことばは、厳しい社会状況が続いています。感謝の気持ちを大切に、仲間づくりに全力で取り組むたい。そして、そのための強い心と身体を印西中学校で育み、健康でいられることの幸せを感じながら一日一日を大切にしていきたいという内容でした。

ことばは、声を伴い、声はリズムと同時に息づかいをもっています。人としてのあたたかみを感じさせながら、自らの信念と覚悟が伝わる素晴らしい代表二人の生徒のことば、そして新入生の凛とした立派な態度でのスタートとなりました。

